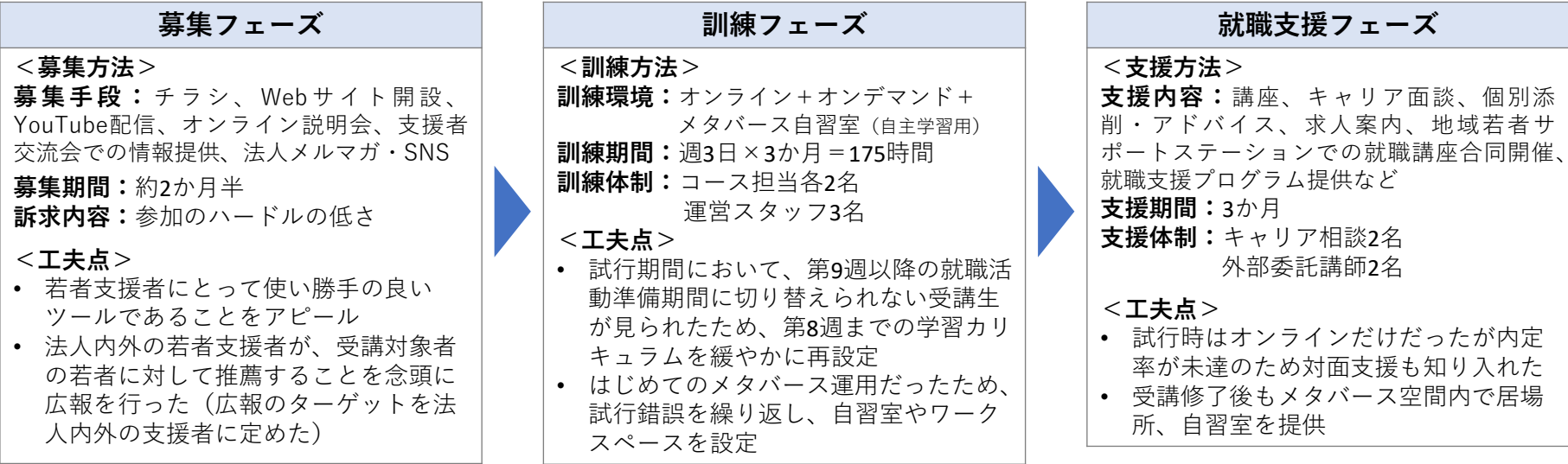


〈訓練パッケージの全体像〉

受講対象者の属性		従来型就労支援では取りこぼしてしまう若年無業者・不安定雇用者 （“就労支援”と名のつくところには参加したがない若者）
受講対象者が 直面している課題		“働く”イメージが乏しく“就労支援”と名のつくところには積極的に参加せず、心理的・精神的な課題を抱えていたり、生活習慣が大きく乱れ基礎的な生活力が不足している課題のある者も含む。
訓練概要		ITスキル（動画編集・プログラミング・WEB制作の3コース）を身につけ（自己肯定感醸成）、そのスキルを活かし ながら“仕事体験”を行う（他者との協働によるコミュニケーション能力向上）ことで、就職活動準備に向かう
訓練の 新規性	既存訓練の課題	オンラインのため（チャット・共同作業用ツール、オンライン会議用ツール使用）、どうしても講義形式の要素が 強くならざるを得なかった。困ったときにSOSが出せなかったり、誰にも相談できず抱え込んでしまっ たりするケースが多々あった（これらコミュニケーション力はもっと受講生に身につけてほしい力でもある）。
	本訓練での試み	メタバース空間を使うことでオンライン上に居場所が生まれ、自然な対話が可能となる。話しかけよう と思う対象（スタッフやほかの受講者）がそこにいる・話しかけて良い状態であると“可視化”でき、質問・ 相談・雑談ができるようになることをめざす。
カリキュラム		● 第1～4週 基本ソフト操作の習得 [3コース共通]目標設定・自己分析ワーク、コミュニケーション実践など ● 第5～8週 案件にこたえる仕事体験 [3コース共通]成果物のプレゼンテーション会 ● 第9～12週 就職活動準備 [3コース共通]書類作成・面接対策講座、就活イベント参加、個別相談など

〈訓練パッケージの流れ〉



〈試行結果〉

試行時期	2024年5月～11月	試行エリア	首都圏を中心に全国
受講者数等	受講者数：50名 修了者数：47名		
就職状況	正規就職者数：2名 非正規就職者数：15名		
結果に対する評価			
就職活動開始率は達成できたものの、内定率が目標まであと14ポイント足りない結果となった。学習カリキュラム期から履歴書作成などを徐々に進められるようゆるやかなカリキュラム再構築、就活できそうな受講生に対しては3か月目を待たない就活支援など対策を行っていたが、まだ改善の余地があると考えている。就労意欲の良い変化、就活開始、進路決定に関しては目標達成している。			
効果が得られた施策とその要因			
〔オンライン+メタバースの効果〕 オンライン上に居場所空間が生まれ、自然な対話が可能となった。これがなければ脱落していたと感じる受講生が何人もいる。各々の進捗を確認し合う関係性ができてきており、人に頼ることの大切さも身についた - 内定率の目標未達を受け、オンライン以外に対面での就労支援を盛り込んでいったところ、効果が現れているように感じる			

〈今後の訓練手法活用に向けて〉

今後の課題及び改善策
〔参加要件と就労までの射程〕 多くの若者に参加してもらおうとすると、参加のハードルを下げざるを得ず、参加のハードルを下げると進路決定・就労までの射程は長くなる。しかし、「支援を届けづらい若者にこそ支援を届ける」ことが重要なため、参加要件はこのままで、よりていねいに個別対応を行う（→次項）。 〔進路決定までの期間がバラバラ〕 参加要件を幅広く設定しているため、モチベーションや就労能力が異なる受講生が混在している。このため、一括の講座や指導では対応できない。これまでも個別対応を行ってきたが、今後は、受講開始後1ヶ月目に各受講生をアセスメントするケースカンファレンスを確実に行っていく。ある程度モチベーションや就労能力分類したのち、2ヶ月目以降どのような支援を行っていくか方針を立てることで、各受講生に応じて、情報提供の内容、個別面談での目標設定を変えて対応していく。 〔オンライン完結就労支援の難しさ〕 試行段階において、オンライン環境のみで就労支援を完結してきたが、内定率が目標未達のため、「あと一步」の後押しとして対面型イベント提供などを行ったところ好評。今後は月に1～2回対面できる機会を作っていく。 〔講座参加希望者が頭打ちになる可能性〕 現在は、法人内各事業所の支援者と、若者支援を行っている外部団体の支援者に情報提供しているが、支援団体所属の若者の間では「ITスキルを身に着けたい」と考える者は多くはない。そこで、学生層にターゲットを拡大していく。当法人にはポピュレーションアプローチ（高校・大学との連携）を行うチームがあり、そのチームと連携し、高校（特に通信制・定時制）・専門学校・大学へ情報提供していきたい。